

福島大学における安定同位体食性研究

内藤裕一（福島大学大学院共生システム理工学研究科）

元素分析計/同位体比質量分析計を用いた炭素・窒素安定同位体分析は、生物の食生態の解析に有効なツールである。本発表では、①福島大学所蔵のニホンカワウソ剥製標本、②福島県棚倉町胡麻沢古墳出土人骨を含む、過去の生物資料の同位体分析データを中心に報告する。ニホンカワウソは既に絶滅したと考えられているが、本剥製標本は明治期（1886年）に栃木県大谷川流域で採集された数少ない貴重資料である。胡麻沢古墳は昭和47年に発見された、古墳時代中期~後期前葉の時代に属すると考えられている古墳である。計4体の古人骨が発見されており、県立博物館および棚倉町教育委員会の協力のもとサンプル採取と分析が実現し、興味深い結果が得られた。これらの研究内容は磐梯朝日遷移プロジェクトの主旨からはやや外れるが、人と自然環境の関わり合いに関する今後の研究の可能性について議論する材料となれば幸いである。